

令和7年
9月

定例会 一般質問

京都府議会
一般質問動画は
コチラ

- ①シニア世代の働き方について
～サクセスフルエイジング～
②医療DXの今後の目指すべき方向性について

- ③生きづらさを抱える子ども達の居場所について
④特別支援学校における性教育について
⑤その他



01 シニア世代の働き方について

⇒ 質問 サクセスフルエイジングの実現に向け、生涯現役クリエイティブセンターの取組み、シルバー人材センターのサポートをどのように進めていくのか。

答 弁 スキルの向上のみならず受講生同士の交流を深める機会の増加、受講生が自分に合った分野を見つけられるよう多様なカリキュラムを用意するなどの取組み、京都府生涯現役クリエイティブセンターから講師を派遣し、複数のシルバー人材センターの事務局員が集まる勉強会の実施を支援することで、高齢者が

生き生きと暮らすことができるよう、それぞれの強みを生かし多様な事業を実施することで、サクセスフルエイジングの実現に努めてまいります。



私の尊敬するシニアの先輩方

02 医療DXの課題と今後の目指すべき方向性について

⇒ 質問 医療DXの推進に向けて、単に技術を導入するだけでなく、国の動きも踏まえ京都府として何に取り組むべきか。

答 弁 地域において救急医療などの中核的な役割を果たす医療機関などに対し、医療DXによる連携の強化や業務効率化の取組を支援、国の動きとあわせて、医療DXの推進に向け、デジタル技術に対応可能な人材の育成など、普及のための環境づくりを進めるとともに、府内医療機関での導入事例を増やし、好事例の共有を図るなどの取組を進める。



03 生きづらさを抱える子ども達の居場所について

⇒ 質問 ケアリーバーや、様々な生きづらさを抱える子どもの居場所就労支援や生きづらさを抱える子ども達の環境整備としての居場所をさらに多角的に確保する必要性についての所見を伺いたい。

答 弁 市町村と連携し、それぞれの地域における地域資源やニーズを把握しながら、府内全域で多様なこどもの城の設置を促進していくほか、「こども・若者シェルター」についても、国のガイドラインを踏まえた対応を研究していくなど、全ての子どもたちが、身近な地域におい

て、個々のライフステージに応じた居場所を持つことができるよう多角的な視点から子どもの居場所を確保する取組を進める。



04 特別支援学校における性教育の取組について

⇒ 質問 障害のある子ども達への性教育について人権にもとづいた性の知識や人との関わりなども含めた包括的な性教育は、特に特別支援学校でなされるべきと考えるが所見を伺いたい。

答 弁 一人一人の理解に応じた個別の指導を組み合わせることで、学びが深まる実践を行い、本年3月に作成されました「きょうとブレコン高校生教育プログラム」も参考にしながら、一人一人が自分の

望む生き方を実現できるよう、障害の状態や発達程度に応じた段階的な指導を通じ、性に関する必要な知識・態度を育む取組を進めてまいります。

